

明けましておめでとうございます。  
謹んで新年のお祝いを申し上げます。

皆様のお正月はいかがでしたか。穏やかで、ゆったりとしたお正月を過ごされたのではないのでしょうか。

さて、平成が終わり、新しい元号に生まれ変わる年が始まりました。2019年度の国家予算額はとうとう100兆円を超えてしまい、10月に予定されている消費税増税に対する対策予算が2兆円規模になっています（来年度の消費税増税分1兆3千億円を超えているのですからもうビックリ）。この2兆円の内訳に、ポイント還元（キャッシュレス決済をした買物に対して2%～5%還元）分やプレミアム商品券（最大2万円まで購入でき、2万5千円分の買物ができる商品券）の発行分等が含まれています。弊社は地域の活性化のために、ポイントを活用しておりますので、これらの還元策には大変興味がありますが、最も懸念するのは、果たして本当に地域、中小企業支援になるのだろうかということです。従来の施策を見ても、結果的には大企業が吸い上げてしまうことが十分想定されます。例えば、付与したポイントが失効したらどうなるのでしょうか。コンビニ等を含め大手企業が取り扱うポイントの失効分は発行の約4割と言われていますが、この失効分が全て大企業に吸収されてしまうと相当な金額が大手企業に流れることになるでしょう。それでは全く意味がなくなります。是非、そうならない対策を取っていただきたいものです。

新年早々から仕事の話で始まるとは・・・方向変換ですね。今でも大きな話題になっているのが、日産自動車のゴーン元社長が自身の報酬額を不正に記載した有価証券虚偽記載事件です。100億円以上の金額を退職後に受領することが争点になっていますが、驚くのはゴーン氏が無罪を主張していることと、その記載しなかった理由が「多額の報酬を受け取ることが社員を刺激するのではないかと危惧した」ということです。コストカッターとして2万人以上の社員の首を切って（家族を含めるとその何倍もの方々の生活に影響を与え）、日産を再興させたと確かに評価を受けて来ましたが、その見返りが自分自身への100億円を超える報酬とは・・・法的な判断以前の「人」としての倫理的な面から、何か悲しくなりますね。そして経営者としての矜持はどこにいったのでしょうか。「会社とは、社員とは何か」という思考すべき大前提が失われてしまったのではないのでしょうか。ゴーン元社長だけの問題ではなく、日産自動車という会社全体のガバナンスも勿論問われることでしょう。そして、このことは別な面から見ますと、このような状況を招いている社会そのものが、一部の富めるものだけが生活をエンジョイし、その他多数の方々が生活に四苦八苦するという「貧富の差がどんどん広がる構造」を生み出しているように思えてなりません。

昨年の秋に、愛知県田原市の田原市博物館にて「渡辺崋山の神髓」という特別展が開か

れました。渡辺崋山は江戸時代後期の三河田原藩の家老であり、蘭学者でもないのに、蘭学者高野長英と並び蘭学者の指導的な立場にいた先見者です。彼は「蛮社の獄」で断罪され、最後は蟄居していた田原にて切腹して49歳の生涯を終えるのです。蟄居していた田原での困窮生活をしのぐために、絵を売っていたことが幕府に知られてしまって、そのことが藩に迷惑をかけてしまうとして自害したのです。なんと切ないことでしょうか。渡辺崋山は画家としても超一流で（国宝級の作品も残っています）、その彼の絶筆が『黄梁一炊図（こうりょういっすいず）』です。この絵が田原市博物館で展示されていたのです。

『黄梁一炊図』には、中国の故事が描かれています。趙の都である邯鄲（かんたん）に赴いた盧生（ろせい）という若者が、ある宿で呂翁（ろおう）という道士から夢が叶う枕を渡され昼寝をしたところ、「栄旺栄華の生活を過ごし、子や孫にも恵まれ、幸福な生活を送った」と思って目覚めると寝る前に火にかけていた黄梁（粟）がまだ煮あがっていなかった。全ては夢であり、つかの間の出来事であったことに盧生は気がつき、栄華盛衰ははかないものと教えてくれた呂翁に礼を言って、故郷に帰って行ったという故事が描かれているのです。「黄梁の一炊」とか「邯鄲の夢」という別な言い方もあります。

残念ながら私は期間中にその絵を観に行けませんでした。いつか観に行きたいと思っております（ただ、個人蔵のため、難しいかもしれません）。渡辺崋山は、自分の人生も夢のようだ・・・というような思いを込めてこの絵を描いたのでしょうか。時代が時代であれば、渡辺崋山ほどの人物です。大活躍したことでしょう。

最後にちょっと脱線しますが、私の父が亡くなって来月で3年が経ちます。早いものです。生きていれば101歳になります。父の残した歌のひとつに、

「邯鄲（かんたん）の 夢から覚めし 人のごと 夢の一片（ひとかけ） いかが過ぎしと」というのがあるのを思い出しました。東京拘置所にいるゴーンさんも「邯鄲の夢」を見ているかもしれませんね。

それでは、引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、お願い申し上げます。  
今年一年の皆様のご多幸を心よりお祈りいたします。

平成31年元旦

株式会社サイモンズ  
代表取締役社長  
斉川 満

